

平成31(令和元)年度 上田市立北小学校 上半期中間報告

評定：A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:全くできていない

学校教育目標		総合評価		
「花とみどりと笑顔の学校」～あふれるあいさつ ひびきあう心～ 「社会において自立的に生きる力」の育成 10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造		・いままで取り組んできた活動が定着して学校全体を安定させている。次の一步を考えていく時期になってきたと感じている。あいさつについては、笑顔であいさつできる児童が多いが、継続して指導をすることが必要である。教師側も率先してあいさつをしていきたい。		
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
よくふれあい…「友だちいっぱい」 ・教師は、子どもが他者とつながることをサポートしたり、子どもと関わり合ったりすることができたか。		・児童に寄り添ったり、パイプ役になったりして、子ども同士や教師との関わりを広めようとした。	A	・関わりが広がるように意図的な活動を工夫したい。
よく学び…「思いや考えを伝えよう」 ・教師は、学び方を身につけさせ、思いや考えを伝え合う主体的な授業を行うことかできたか。		・ペアや班で、子ども同士で考え合う場や話し合う活動等を取り入れた。	B	・伝え合う活動を重視し、学び方や教材を工夫し、成就感につなげたい。
よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」 ・教師は、ハッピータイム等で子どもたちと一緒に遊び楽しむことができたか。		・体育館や教室等で遊ぶことができた。指導等で時間が十分につくれないうきももあった。	B	・児童にまかせることは必要だが、見届けも行っていきたい。

領域	重点	評価項目	評価の観点			
学校教育	よくふれあい	「多様な他者とかかわり合う場」の確保	学校において、地域の様々な大人と関わり合う場を確保し、地域のもてる力を有効活用しようとしている。	・クラブ活動を中心に、行事、諸活動で学習ボランティアや地域の方との関わりができており、場の確保や有効活用はできている。	A	・関わりを質を高める工夫をしたい。
		「教師が子どもと向き合う時間」の確保	朝の学級活動の時間の工夫により、教師が子どもと向かい合い、子どものやる気を高める時間となっている。	・行事、学習内容やクラスの実態に合わせた活動等を取り入れ、有効に活用している。	B	・パターン化したり、有意義に使えたりできていない面もあるので、子どもと向き合う時間として有効か検討したい。
	よく学び	「連学年研究体制による授業改善」	全職員が専門派遣講師による授業公開や教材研究を通して、授業改善を図ろうとしている。 国語、算数を中心とし、児童の「自ら学ぶ力の強さ(学力)」を向上させようとしている。	・積極的な公開と参観による学び合いができた。様々な先生の見方による学びができた。 ・主体的な学びになるように計画しているが、まだ十分ではないので、引き続き取り組みたい。	B	・学んだことを取り入れ、研究を継続していきたい。
		「北小学びのスタンダード」(全学年共通で身につける学び方の基本)の推進	教師の指導がなされ、以下のことができている。 1 話す人は一人。 2 呼ばれたら「はい」と返事をする。 3 相手に顔と体を向ける。 4 相手に聞こえる声で終わりまで話す。 5 相手が話し終えるまで聞く。	・常に意識し、必要に応じ確認することで、かなり身につけてきており、学習規律として定着が図られてきた。子ども側からも注意ができるようになってきた。	A	・意識しすぎると活発な話し合いになりにくかったり、つぶやきが大切にされなかったりすることもあるので、対話力を育むために、場面によっては、検討が必要である
		書く(伝える)活動の充実	教師は、日記指導等を通し、児童が自ら学ぶ基礎力(思考力、表現力)を育てようと指導している。	・書き方指導や毎日のコメント記入を行っている。表現力の向上が課題である。	B	・点検の時間の確保や方法の工夫についても考えていきたい。
	よく遊ぶ	自主的活動の時間の確保	昼休み等の時間が、遊びや、児童の自主的な活動のための時間となるよう指導している。	・子どもたちが自分たちで考えた遊びを提案して楽しく遊ぶ姿が見られる。	B	・班活動等も取り入れ、自主的に協力することがさらにできるように工夫したい。
		「ハッピータイム」(外遊びの日)等の充実	教師は、子どもと共に遊ぶ等、子どもが外遊びに進んで取り組むような働きかけをしている。	・声がけ等して大勢で遊んでおり、子どもたちにとっては充実した時間となっている。	B	・教師の働きかけの具体をさらに明確にしたい。
学校運営	との連携 保護者・地域	情報の発信	学校(学年、学級)は、教育方針、取組やその成果、連絡など、必要な情報を発信している。	・学年通信は、ほぼ毎週、学級や学校通信は必要に応じて発行し、学校での様子を知らせた。	A	・効果の上がる情報を発信していきたい。
		PTAやボランティアとの連携	学校は、PTAやボランティアとの連携を十分行っている。	・ボランティアの方々の存在が大きい。PTAとも協力して活動を行っている。	A	・ボランティアの内容を検討し、さらに連携を深めたい。
		家庭学習の充実	学校は「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけをしている。	・「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣が身につけてきている面もある	B	・家庭学習の意欲、家庭との連携、成果につながっているかを検討する必要がある。